中期計画N2026及進捗状況　2023年度 東京農業大学

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
内部質保証	UA2-1	全学審議会による各学部・研究科PDCAサイクルの支援機能強化に向けた進捗管理	4年	25%	全学審議会設置委員会で検討された内容が、自己点検評価という形で学部･研究科に周知され、活動計画、活動報告と繋がっている。
	UA2-2	全学自己点検評価委員会による内部質保証システムの検証とさらなる有効性検証機能強化検討	4年	25%	全学自己点検評価委員会と全学審議会が連携して、点検評価を適切に実施している。
	UA2-3	教育研究活動等の自己点検・評価結果の公表による内部質保証の担保	4年	25%	学校法人東京農業大学のホームページと連動し、中期計画N2026を公開している。
	UA2-4	学部・教学マネジメントの再構築（学部・大学院共通）	4年	25%	【学部】2024年度からのカリキュラム（教育課程）改正にあわせ、全学部･学科において3ポリシーの点検･見直しを行った。今年度内に本学のアセスメントポリシーを作成したうえで、点検評価→FD活動→情報公開を含めた教学マネジメントの枠組み（サイクル）を立案する予定である。 【大学院】学部の2024年度カリキュラム（教育課程）改正にあわせて、大学院の研究科･専攻も3ポリシーを点検し一部見直しを行った。学部の教学マネジメントの再構築（サイクル）の状況を踏まえて、大学院の次期カリキュラム改正、アセスメントポリシーの作成を進めるとともに、大学院の教学マネジメントを検討していくこととなった。
	小計（進捗平均）			25%	
教育研究組織	UA3-1	国際化推進のための組織･体制強化	4年	25%	語学力、海外での勤務経験があり、また在留資格管理や国費留学生制度について豊富な経験を有する地域限定職員が1名採用され、CGIに配置された（2023年4月）。
	UA3-2	学園化にもとづく法人下各併設学校･その他高等学校との協力や教育の連携	4年	25%	取り組み強化に先立って、法人外の一般高校との高大連携の取り組みとして、生物産業学部では、関西圏の高校生約100名を対象にしたオホーツク学、網走探究プロジェクトを実施し、オホーツクの資源を活用した探究学習の機会を創出している。また、大阪府にて海洋シンポジウムをハイブリッドで開催し、300名を超える参加があり、高校生を中心にSDGsと総合農学の学びを発信した。 また、併設校における高大接続活動として、2023年度は各併設高校にて各学部の学びの理解を促すべく、説明会の実施や一部教員は、個別に出前授業を実施している。次年度に向けては、さらに広く総合農学の学びを周知するため、「東京農業大学STEAM教育講座」を立ち上げ、2024年4月からの運用開始に向けてオンデマンド教材の準備を進めている。 2023年度から新たに高大連携推進委員会が立ち上がり、取り組み強化を図っている。1年目として、学部の特色を活かした「高大連携」を推進するためのガイドラインや各種申請様式を策定した。
	小計（進捗平均）			25%	

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
教育課程・学習成果	UA4-1	多様な学びを推進するための学修制度の導入	4年	33%	今年度は、他大学における副専攻制の導入事例（成果・課題を含め）の情報収集にとどまり、副専攻制導入の検討（導入の有無）には至らなかった。スケジュールを繰り下げ、本学の総合農学の強み、各学部の特色等を踏まえた本学に適した副専攻制導入に向けた具体的な検討は次年度に行うこととした。
	UA4-2	学部・分野横断の課題解決プログラムの導入	4年	25%	プログラムの実施概要を立案し、2～3年次に関係科目を履修のうえ4年次に総括する学びの体系を委員会で決定した。具体的な特定課題（プログラムのテーマ）の選定、対象科目の選定、担当教員に対する授業支援、コーディネーターの選定等の検討は次年度に行うこととした。
	UA4-3	学部・大学院一貫教育プログラムの構築・推進	4年	25%	制度導入に向けて、生命科学研究科（先行して導入予定）とキャリアセンターにおいて、学部・大学院一貫教育に関する企業へのアンケート調査を実施（約130社）した。今年度内に本調査結果を踏まえ、具体的な教育プログラム及び実施計画案を策定し、この機関決定は次年度に行うこととした。
	UA4-4	ダブルディグリープログラムの構築・推進	4年	25%	導入初年度は、本学及び英国・レディング大学にて募集を行ったが応募者なしという結果であった。また、レディング大学の学期制度が3学期制から2学期制に変更となるため、同大学からの申し入れによりプログラムの実施スケジュールと単位互換科目の内容を一部変更し機関決定した。
	小計（進捗平均）			27%	
学生の受け入れ	UA5-1	優秀な外国人留学生確保のための制度制定	4年	25%	全学審議会国際化推進委員会における議論、関連部署との打ち合わせを重ね、特別留学生制度の見直し、新規奨学金制度・入試制度の素案が策定された（2023年12月）
	UA5-2	入学定員の適正管理(1)選抜制度、実施体制検証および選抜制度改革	4年	25%	2023年度入試から入学者数は学部収容定員1.1倍未満との文部科学省の通達に基づき、昨年度は入学定員1.075倍とし、かつ年内入試合格比率を若干高め、定員適正管理の対策を講じた。今年度は、東京情報大学との融合を見据えて収容定員の1.05倍未満とし、年内推薦比率55%の方針を入学者確保目標人数と定めて入学者確保に努めた。
	UA5-3	入学定員の適正管理(2)新学習指導要領への対応（一般選抜改革・外部試験の検討）	2年	25%	文部科学省が定める「2年前ルール（入学者選抜を変更する場合は、2年程度前に予告・公表すること）」に従い、新学習指導要領に対応した2025年度入試の試験科目の公表と一般選抜実施体制の検証を行うなど、一般選抜実施体制の準備を進めた。
	UA5-4	効果的な入試広報、キャンパスイベント、進学相談会等の実施(1)オンライン広報戦略	4年	25%	効果的な入試広報、キャンパスイベントの実施を視野に入れ、動画コンテンツの充実、学生広報スタッフによるYouTubeチャンネルの運営等、オウンドメディアを活用したホームページ「農学のトビラ」をオープンした。
	UA5-5	効果的な入試広報、キャンパスイベント、進学相談会等の実施(2)戦略的に対処する地域の明確化	4年	25%	効果的な入試広報の実施に向けて、戦略的に対処する地域を明確化し、高校訪問や高校教員を対象としたイベントの開催等、重点地域への広報活動を実施した。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
	UA5-6	戦略的な広報活動の実施による認知拡大、ブランド力向上、志願者の獲得	4年	25%	「総合農学」の発信について、Tokyo FM「あぐりずむ」継続実施と小田急線車内ステッカーによるクロスメディア活用、「経堂」「本厚木」2駅の副駅名プロジェクトと連動したノベルティやイベント等を実施した。また小田急グループとの包括連携協定を締結し、世田谷・厚木キャンパスで地域に根差すより一層の活動推進を検討する。 また、志願者獲得に繋げるべく、SDGsと総合農学ブランドの発信として、海洋シンポジウムをハイブリッド開催した。対面・オンライン含め300名以上の参加者があり、うち3名が推薦入試にて海洋水産学科を受験、次年度入学予定である。入学センターと企画広報室における業務・予算の移管を含め、入試広報・大学ブランド広報の整理を行い、2024年度から実働予定である。
	小計（進捗平均）			25%	
教員・教員組織	UA6-1	体系的FDの構築・推進（学部・大学院共通）	4年	25%	【学部】今年度のFD活動は、「東京農業大学のFD実施に関する方針」に基づき教員からの要望を踏まえて企画・実施した。今年度末までに、今年度の活動（研修会や表彰制度）内容をベースにFD制度を体系化してまとめ、機関決定のうえ次年度からのFD活動につなげていくこととした。 【大学院】今年度のFD活動は、「東京農業大学のFD実施に関する方針」に基づき教員からの要望を踏まえて企画・実施した。今年度末までに今年度の活動（研修会や表彰制度）をベースにFD制度を体系化してまとめ、機関決定のうえ次年度からのFD活動につなげていくこととした。また、大学院独自の活動として、学振特別研究員採択に向けた説明会を今年度も継続して開催した。
	小計（進捗平均）			25%	
	UA7-1	ピアサポート制度による学生支援及びキャンパス活性化	4年	25%	教務支援部の若手職員を中心とした推進チームを立ち上げ、他大学への視察、制度立案、予算申請等を行い機関決定された。現在、学内に周知し学生スタッフの募集を行っている。次年度から、世田谷キャンパスで先行して実施し、その後、他キャンパスに活動を拡大してく予定である。
	UA7-2	大学院生博士後期課程に特化したキャリアップ支援制策の実施	4年	25%	今年度から新たに、将来、大学教員や研究者を目指す大学院博士後期課程の学生を対象に「プレFD研修」を実施した（22名参加）。あわせて、他大学がオンラインで公開しているプレFD（無料版）の情報を提供し、キャリア支援の充実を図った。次年度以降、キャリアセンターと連携して、各種支援策の効果を検証いていくこととした。
	UA7-3	多様な学生に対応した修学支援の実施（学術情報課程における修学支援）	4年	25%	学術情報課程内に3キャンパス合同のWGを設置し、授業に対する満足度、資格取得及び就職先に対するアンケートを作成し、1月上旬からWEBにて実施した。なお、アンケート内容は2月から課程内で分析を行い、次年度に向けて授業及び実習の改善に繋げていく。
	UA7-4	多様な学生に対応した修学支援の実施（教職課程における修学支援）	4年	25%	学部3・4年生対象の教員採用試験対策講座：7月末までの講習27回に合計162名の学生が参加した。8月上中旬に一次試験合格者約70名へ最終面接指導を実施した。2次合格者23名：1/22段階。 学部2・3年生対象の教員採用試験対策講座：8月末の段階で62名が登録した。9月9日に開講式を実施し1/22段階で9回の講習が終了。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
	UA7-5	外国人留学生の修学支援	4年	33%	各キャンパスにおいて留学生受入れに関係する事務・教員との打ち合わせを実施し、留学生受入れ環境に関する課題の確認や今後の環境整備に関し、意見交換を行った。また、留学生に対しては、日本語教育のニーズ確認調査を行い、新カリ日本語科目に反映させた。学生寮の老朽化が激しく十分な住環境を提供できていないことから、R6年度予算申請にて学生寮リフォームに係る予算申請を行った。
	UA7-6	新卒採用の動向や、国の方針に対応した就職支援プログラム策定と実施による学生満足度の向上	4年	33%	・Step1の新卒就職市場の動向把握、スケジュール感等は本学の就職支援サポーターである「㈱マイナビ」と月に一回の打ち合わせを行い、情報提供を受けている。他の就職情報サイト(㈱リクナビや㈱学情等)からも同様の情報提供、意見交換の場を設け、本学の就職支援プログラム策定の参考にしている(3キャンパス共通)。 企業の採用動向は、①売り手市場、②選考はオンライン・対面併用型。 学生の動向は、一般応募のオーディション型からスカウト型(企業からアプローチする)と併用。 【3キャンパス共通】就職支援プログラムの基幹プログラムは、早期化する採用活動に合わせて動きだせるように、動機付けにつながる講座に盛り込んだ(インターンシップ講座)。3キャンパスの学生が参加できるようにオンライン実施とした。 ・進路選択の視野を広げる講座として以下の講座を開催した。 ①□ながる業界研究会(オンライン/農業業界、食品業界、街づくり業界、IT業界(2023年度から開講)参加者540名参加した学生の満足度は高く、業界が理解できたという意見が多かった。 様々な業界から卒業生が講師として登壇するオリジナル講座で、次年度も新しい講座を検討していく。 ②□OBOGTALK(対面・オンライン併用/各業界で活躍する卒業生との座談会形式の講座)(9/20・26・27) 参加者150名 多くの学生が参加し、講座の後は教員、職員と情報交換の機会を作った。卒業生活躍やキャリアプランを聞くことを趣旨としていたが、学生の興味は採用試験の内容に向いているようだった。参加学生の満足度は高かった。 【世田谷キャンパス】 就職の多様化における選択肢を広げる手段として、「農大OBのキャリアパス講座」を開催した。(対面7/6実施:LOCAL BAMBOO株式会社 起業、2014年工学卒　江原太郎さん) 参加者9名。参加者は限られていたがアンケート結果では、「学びが大きかった」「興味深かった」など満足度が高く、視野を広げる講座となった。 　また、学生のアンケート結果から、実践的な講座を希望している学生が多いことや企業も面接やグループディスカッションを対面にて実施する傾向にあることから、今年度は対面の講座を増やしニーズに対応した。 ・学生調査は講座ごとに行い、年度末に全体をまとめて次年度講座の検討材料とした。 【厚木キャンパス】 就職活動でインターンシップのウエイトが年々重くなってきており、これまで後学期に行っていた対面で実施しているプログラムを前学期に行うよう変更した。参加した学生にアンケートを行ったところ高い満足度を得られている。 【オホーツクキャンパス】 3年生必修授業「キャリアプランニング」において担当外部講師と綿密な打ち合わせを行ったうえで就職支援の各種プログラムを開講しているほか、キャンパス学生の就職志望に近い分野の業界研究会などを開催している。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
学生支援	UA7-7	留学生の支援体制の構築	4年	33%	・外国人留学生には、留学生面接準備セミナーや就職ガイダンス等、5月から12月まで計5回を開催した(世田谷キャンパスのみ)。参加者は合計17名。 ・グローバル連携センターと意見交換を行い、外国人留学生のうち日本国内での就職を希望する学生の人数や日本語レベル等を把握したうえで、外部機関(東京外国人雇用センター等)の利用も合わせて行い、効率的に支援していくこととした。 ・日本人留学生には、グローバルセンターの「留学フェア」に留学中に利用できる進路・就職支援の内容を参加学生に案内した。(3キャンパスの留学フェアで実施した)。また、後期派遣の留学者向け説明会で、キャリアセンターの支援内容を説明した。留学中でも、キャリアセンターの支援を利用できることを周知した。 次年度は留学者向け説明会で、キャリアセンターの説明時間を30～40分程度に拡大して実施予定。 ・グローバル視点でのキャリア形成講座は、海外で働くきっかけ、やりがい等をそれぞれの体験談からイメージできるように「グローバル人材体験談」、「グローバルキャリアプログラム」を開催した。 国際インターンシップは時期、内容を精査し、2年次に実施することとした。
	UA7-8	大学院生の進路支援強化のための「チャレンジワークショップ」を通じて、進路の選択肢拡大につなげる	4年	25%	今年度は合計5か所の実施となった。4か所を訪問し、1企業をオンライン開催とすることでオホーツクキャンパスの学生が参加しやすいよう配慮した。 訪問:キユーピー、農研機構、製品評価基盤整備機構、食品分析センター、オンライン:サカタのタネ 訪問企業の選定は、昨年度の実績から学生が注目している企業を中心に決めた。また、学内イベントの参加率が伸びない地域環境科学研究科の就職対策委員と選定企業(業界)、参加率等について意見交換を実施し地域環境科学研究科は研究室教員と企業のつながりが強く、研究室単位で企業訪問やインターンシップに参加させていることが多いということだった。 参加学生へのアンケート結果から、参加した学生は満足度が高く、体験前後の行動や意欲が高くなっていることがわかった。 企業側のアンケートも高評で、特に参加した学生の積極的な姿勢や態度が好印象だった。 オンライン実施では(サカタのタネ)、研究センターやOBの業務紹介に加え、企業で研究開発する上での考え方などを学ぶグループワークを実施した。
	UA7-9	学部学科、他部署(健康サポートセンター、グローバル連携センター等)との進路支援に係る協力体制の充実と学生の多様性に対応した進路支援体制の構築によるキャリアセンター利用率向上と多様な進路への対応	4年	25%	1.学部3年生、M1生を対象とした進路面談を10月に実施した(3キャンパス実施)。 2.Step1.1 【世田谷キャンパス】進路面談参加率向上の為の施策を検討の結果、世田谷キャンパスでは進路面談実施期間の前に希望する学科で説明を行い、実施の内容や場所(キャリアセンターと、学生の導線にあたるサイエンスポート1階フリースペース)で実施した。 【厚木キャンパス】構えずにキャリアセンターに来てもらえるよう、農大キャリアナビへの進路希望登録と登録者への履歴書配布と学生に周知をし、履歴書を受け取りに来た際に面談を実施した。期間は、締切日のみを設定し、1か月以上に亘り学科不問で行った。 【オホーツクキャンパス】学部3年生必修授業キャリアプランニングの一環として日時を指定して個人面談を実施した。指定日時に都合が悪い場合は適宜変更を受け付け実施した。M1生、D2生も出席率は良好であった。 step1.2. 【世田谷キャンパス】進路データはポータル文書管理で共有し、月末に進路データを更新している。更新の際には就職対策委員に通知し、各学科で利用可能としている。 【厚木キャンパス】進路状況調査毎にその結果を学生の担当教員へ報告を行った。これにより、教員からの情報提供を得ることができている。 【オホーツクキャンパス】世田谷キャンパス同様に文書管理で共有し、1か月ペースで更新している。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
	UA7-10	授業料減免や奨学金などの経済的な修学支援の検証および実施	3年	33%	「東京農業大学人物を畑に還す奨学金」制度の廃止及び同制度の原資を第3号基本金の「東京農業大学大学院学びて後足らざるを知る奨学金」へ組み入れた。令和6（2024）年度から国（日本学生支援機構JASSO）の給付型奨学金制度が拡充される。
	UA7-11	多様な学生に対応した生活支援の実施(1)障がいのある学生のための修学支援	4年	25%	Step1～4について実施し、支援申請者97名（2023.12月現在）。SD研修として、「発達障がいとは？」を開催。全教職員にむけて障がいに対する理解を深め、関わり方を知る機会を提供した。また、「学生相談及び修学支援申請における個人情報の取り扱いに関するガイドライン」を制定し、支援体制の強化をはかった。コロナ禍の影響もあり、障がいのある学生が多様化し、増加傾向にあるが、相談室の利用を促してくださる学科教員も多くなってきた。
	UA7-12	心身ともに健康な学生生活を送るための生活支援の実施	4年	25%	長年の成果からか学科教員の認知度が高まり、学生や保護者にも利用が促されている。心身の健康状態は定期健康診断等でも把握し、学生相談室と保健室が連携し、場合によっては学科や関連部署とも連携し問題解決につながっている。
	UA7-13	コロナ禍において停滞した課外活動を活性化するための課外活動支援の実施	3年	25%	コロナ禍の3年間で実施できていなかった課外活動団体加入学生の調査を実施。
	UA7-14	多様な学生に対応した生活支援の実施(1)障がいのある学生のための修学支援	4年	50%	学生教務課と保健室、カウンセラー及び学科との情報共有は意識して行うように心がけ実施されている。対象学生からの要望に応じて補助器具等の購入を行ったが、施設改修等予算申請までは実施できていない。修学支援申請者は増加傾向にある。
	UA7-15	心身ともに健康な学生生活を送るための生活支援の実施	4年	50%	従前から行っているK10調査及び学科による定期的な面談は継続して実施し、カウンセラーからのヒアリングと教職員向けメンタルヘルス学習会も開催しており、現状把握と情報共有は概ねできている。カウンセリングを受ける学生の数は増加傾向にある。
	UA7-16	コロナ禍において停滞した課外活動を活性化するための課外活動支援の実施	4年	25%	コロナ禍は終息したにもかかわらず課外活動はコロナ禍以前の状態には戻っていない。現状での課外活動団体の活動状況等を調査した結果同好会は半数以下に減少している。課外活動活性化推進計画については現在検討を進めている段階である。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
	UA7-17	外国人留学生の修学支援	4年	25%	本年度入学した留学生へ対し、4月6日（木）に留学生ガイダンスを行い、その際にヒアリング調査を行う予定であったが、留学生の入学がなかったためヒアリング調査を行えなかった。CGIと情報交換を行い世田谷の留学生ガイダンスの状況等を把握した。
	小計（進捗平均）			30%	
	UA8-1 UA8-2	質の高い教育を実施するためのLMSの導入（学部・大学院共通）	4年	25%	【学部】前学期に候補のLMS（2社）を対象に実際の授業において試行導入し、各種機能、学修成果の可視化対応、導入コスト等を踏まえ導入するLMS（日本データパシフィック社のWeb class）を機関決定した。現在、次年度からの導入に向けて準備を進めており、2～3月に教員対象の導入説明会とテスト使用、学生への周知の準備等を行う予定である。
	UA8-3	インターネット利用環境の整備	4年	25%	これまで世田谷・厚木キャンパスはデータセンターを経由してインターネットを利用していたが、今回の更新により直接インターネットにアクセスできるようになった。これにより2022年に拡張した通信帯域（世田谷：10Gbps⇒100Gbps、厚木：1Gbps⇒10Gbps）を活かすネットワーク構成となり、今後通信量の増加が見込まれる環境に耐えるよう整備した。
	UA8-4	情報教育の授業運営に係る支援強化	4年	25%	本年度の後学期よりコンピュータシステム入替のため、新システムでの授業運営を実施している。 新カリ予定のデータサイエンス基礎科目(数理・データサイエンス・AI教育)について、本年度は特別講義として前期16コマ実施し、次年度の認定制度への申請に向けて、申請資料の作成を進めた。
	UA8-5	パソコン利用技術向上に寄与する情報処理関連資格の対策講座の実施	4年	25%	MOS講座は年2回(夏期、春期)オンライン(オンデマンド)で実施している。 夏期講座については実施済で、現在は春期講座の準備をしている。 開講講座についてはWord上級レベル、Excel上級レベル、Word一般レベル、Excel一般レベル、PowerPoint一般レベルである。 MOS試験結果(夏期): Excel上級レベル3(合格)/4(受験者) Word上級レベル2(合格)/2(受験者) Excel一般レベル7(合格)/7(受験者) Word一般レベル4(合格)/5(受験者) PowewrPoint一般レベル1(合格)/1(受験者)
	UA8-6	数理・データサイエンス・AI教育プログラムの実施	3年	33%	2023年度の前期に「特別講義 データサイエンス基礎」を開講し、受講者への授業アンケート調査を実施した。 次年度の認定制度への申請に向けて、申請資料の作成を進めた。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
	UA8-7	遠隔授業とBYOD環境の充実	4年	33%	step1：持ち込みPCから印刷可能なシステムの構築とシステムに対応したプリンターの導入（世田谷・厚木の演習室・自習室に各1台）まで完了。現在利用者向けマニュアルの準備中であり、2023年度中にリリース予定。 step2：デジタル教科書の利用開始に伴い同時接続数の増加が見込まれるため、一部の教室に無線AP増設を計画。2023年度中に完了する予定。
	UA8-8	特色ある国際プログラムの実施（学部主導型国際化の推進）	4年	50%	①長期派遣留学者以外の学生が海外協定校で単位を取得した場合の農大での認定、②正課外での多様な海外経験の単位化（インターナショナル・スタディーズ3の新設）、について全学審教学検討委員会に提案し、この内容について承認を得た。2024年度から運用開始を予定している。 初の試みとして2023年度夏に地域環境科学部による学部主導型短期プログラム（全学対象）を派遣した。また、学部間協定校との長期・短期の学生交流が活発に行われた。
	UA8-9	特色ある国際プログラムの実施（世界学生サミット）	4年	50%	協定校数純増による本学予算増及び施設のキャパシティオーバー、発表内容の質の低下などの問題について全学審国際化推進委員会にて議論を行った。今後の方針として、発表者選考の導入、国の経済状況に応じ一部の海外協定校に渡航費用負担を求めることなどが承認され、同方針に基づき海外協定校への2024年度学生サミットの招待状を発送した。2023年学生サミットでは教育後援会から寄付金を受け、学生サミット運営費用として支出した。
	UA8-10	総合的な研究コンプライアンスの実施による健全で適切な教育研究基盤環境の構築	4年	33%	①研究コンプライアンス教育：【全教職員、対象となる大学院生】実施計画に基づきオンライン教育を実施、【学部生】webテキスト導入に向け、外部業者等へのヒアリングを実施 リスクマネジメント教育：学内教職員向けに、知的財産や利益相反、安全保障貿易管理等に関する総合的なリスクマネジメントセミナーを実施し、同内容のオンデマンド配信を実施 ②取組み方針等：総合研究所ホームページを刷新し、研究コンプライアンスを総括して公表するページを作成
	UA8-11	学生満足度の高いキャンパス整備の推進と教育研究施設の充実(1)課外活動が活発化する活動環境の計画的な整備	4年	75%	令和5（2023）年度において旧青雲・育英寮の新学生寮の建て替えに向けた、解体及び設計費等をスポーツ振興室に予算化し設計及び解体を実施。また、予備費により夜間練習時照度不足の陸上トラックの照明整備及び、劣化が激しく学生の怪我の原因となっていた人工芝の張替工事を実施。 （N2026アクションプラン提出時の2022年度に計画（案）提出済み）
	UA8-12	学生満足度の高いキャンパス整備の推進と教育研究施設の充実(2)食サービスの安定化と向上の推進	4年	50%	令和6（2024）年度に生協カフェテリアグリーン厨房の老朽機器（対応年数超過）の入れ替え費用の予算化及びカフェテリアグリーンで令和5（2023）年度に複数回故障し、老朽化（対応年数超過）の激しい食器自動洗浄機を大学の予備費、教育後援会寄付及び生協寄付により令和5年度に入れ替えを実施。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
教育研究環境等	UA8-13	総合的な研究戦略の策定による持続的で強靭な社会形成への貢献	4年	33%	①東京農業大学こめプロジェクト研究に賛同する企業や団体から寄付金等を獲得し、研究成果報告会を実施した。 2023年度実績：寄付金2社7,000千円（他2社手続き中）、共同研究1件13,938千円（総額26,783千円） ②東京農業大学と東京情報大学における異分野学際融合を前提とした2件の学内プロジェクト研究を実施した。 ③公的研究費や民間資金等の外部資金の獲得は、前年度対比で1.3%増となった。 2023年度実績：478件1,048,093千円（前年度実績：470件1,034,992千円） ④【人材の好循環】専門人材URA2名の活用と若手専門人材URAの採用募集、総研事務職員の契約実務・私大連研修・PC研修等参加、【知の好循環】「特許等出願」2023年度実績16件（手続き中含む）、「マッチング機会の創出」産官学・地域連携HUBシンポジウム2回実施（11月・12月）、【資金の好循環】「特許等関連収入」2023年度実績3,179千円（前年度比624%増）
	UA8-14	学内施設を活用した研究拠点の形成による実効的な研究推進の実施	4年	33%	①生命科学研究センター附置機関の利用料等収入の実績は以下となる。 生物資源ゲノム解析センター：12,945千円（前年度比2.0%減）、微生物リソースセンター：857千円（前年度比102.0%増） 次世代育種研究センター：実績なし ②研究支援ベースを活用した寄付研究や共同研究の実績は以下となる。 2023年度実績【内訳】寄付研究：2件、共同研究：4件（前年度比1件増）
	UA8-15	農ある風景の世田谷キャンパスの再整備	4年	25%	2023年12月国際センター北側のエリアが完成し、エリア内の畑地の利用の募集が始まった。
	UA8-16	学生と教職員とで創る農ある風景のキャンパスに向けたウェルビーイングなキャンパス整備の推進と教育研究施設の充実	4年		統合（UAV-1と統合）
	UA8-17	教室等の施設設備の改善・充実による教育環境向上	4年	25%	8号館(講義実験棟)2～4階教室及び大講義室の空調設備設置、並びに大講義室の机・イスの整備にあたり、まずは2024年度予算として8号館3階の2教室(8-301,302教室)の空調設備設置に係る予算申請を行った。 2025年度以降、8号館2階及び4階教室の空調設備を設置し、大講義室の整備については2026年度実施に向けて具体的な整備内容を2025年度までに検討する。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
	UA8-18	利用者ニーズを踏まえた図書館資料の充実	4年	33%	step1については、年度の第１回図書館運営委員会において、図書館から目標を提示し、運営委員からの了承を得て実行している。図書の購入希望については、図書館HP上から随時受け付けており、選書基準(選書購入基準)に照らして複本でなければ原則購入している。2023年12月までの購入冊数は101冊で、内訳は学生からの購入希望87冊、教職員14冊である。 step2については、図書館長からタイトル数の維持について説明と要望を説明した結果、現行タイトル数を堅持するよう指示を受けた。併せて2024年度のEJ・DBの購入価格について、原則2023年度と同額の予算を計上するとともに、価格上昇分を特別費として申請した。 step3については、指定図書は前期と後期の開始前に教職員ポータルを通じて教員に購入希望を募っている。また授業関連資料の購入希望は随時受け付けている。キャリア関連資料は、主に学生からの購入希望を募り、希望が提出され次第なるべく早く購入・登録して利用に供している。
	UA8-19	時代に対応した利用者サービス向上	4年	50%	step1については、2023年度の入館者数は、109,395(2023年12月現在)人となった。これは年度途中でコロナ禍の対応が一般感染症と同じレベルに変更され、学内の人の流れが増加したことが要因と考えられる。読書ラリーについては、今年度229名の参加があった。 step2については、利用者からの要望に対して逐次検討し対応している。2023年度は6件寄せられ、空調の温度設定や資料の配架、施設の利用方法変更などについて要望が示された。館内会議で検討の上回答している。館内の無線LAN環境については、情報教育センターの協力を得て無線APの増設や設置位置変更を行い、通信環境の改善に努めた。 step3については、E-Bookの選択的な購入や、DB提供業者による利用講習会を紹介するなどして、非来館者サービスの充実に努めている。 step4については、事務担当者の人数減により複数業務の掛け持ちが増え、外部研修参加の機会を逸している。それでもオンラインで受講可能な研修を検索し参加するなどの努力を行っている。
	UA8-20	学術成果の社会発信の促進	4年	100%	step1については、当初の計画通り年4回の発行が実現できる予定である。 step2については、投稿論文数について令和5年度は10件(2023年11月現在)となり目標件数には及ばなかった。 step3については、機関リポジトリ運用要領の一部改訂に関連して、改めて教員に対して機関リポジトリの存在を周知した。年間閲覧件数は140,550件であった。 step4については、総合研究所と協力してエルゼビア社と投稿料転換契約を締結する方向で学内調整中であり、若手研究者の論文投稿の機会を確保する環境づくりを目指している。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
	UA8-21	利用者ニーズを踏まえた図書資料の充実	4年	25%	○新入生ガイダンス、企画展示、読書ラリーなどを通じて、学生への図書館利用、希望図書利用を告知。 ○学科長会、選書担当委員を通じて学科教員への図書の推薦、指定図書は授業担当者（非常勤講師含む）に告知。
	UA8-22	時代に対応した利用者サービス向上	4年	25%	○選書委員を通じての教員が進める本の企画展示を実施。 ○新入生ガイダンスや学生ポータルでの読書ラリーの告知、ラリーポイント景品などの充実。e-Book（サブスクの導入等）、EJ、DBのコンテンツ充実を実施。
	UA8-23	インターネット利用環境の整備	4年	25%	○2023年度は研究棟の各階のフロアスイッチの交換及び各階フロアのアクセスポイント（Wi-Fiのアンテナ）交換を実施。 ○運営委員会等を通じてネットワーク整備のニーズ調査や温室建設計画へのネットワーク整備の積極的な参加を要請。
	UA8-24	ニーズを踏まえた蔵書コレクション構築・管理と図書館情報システム改善による業務・サービスの向上	4年	25%	Step1～4について継続的に実施。特にStep4に関連しては2023年夏の全学コンピュータネットワークシステム更新に合わせハード・ソフトウェア環境の更新を実施し2023年10月から新システムへ移行させている。
	UA8-25	ネットワークサービス利用環境の整備・安定運用と利用支援	4年	25%	全学コンピュータネットワークシステム更新に合わせ、当キャンパスにおいても2023年10月より新システム環境への移行を果たしstep1を完了した。step2～4については情報システム定期保守（2月24日～28日で実施）や日常運用の中で継続的に課題解決や最適化に努めている。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
	UA8-26	教育研究活動を促進するための支援の実施：パソコン利用技術向上に寄与する情報関連資格対策講座等の実施	4年	25%	所管するコンピュータ教室にOffice2019対応の講習・試験環境を整備し運用支援を行っている。感染対策にも留意の上、事前のオンラインビデオ講習と対面講習・試験のハイブリッド形式で、第一回目（Word・Excel）を2023年7月24日、25日、第二回目（PPT・Excel）を2024年1月30日、31日に実施している。
	UA8-27	複数の専門学芸員職員の確保と教職・学術情報課程との連携強化	4年	25%	館長、副館長、学芸担当教授、事務部長は学科や事務部の兼務として配属され、事務職員1名、事務職員・学芸員1名、事務嘱託1名、派遣職員1名が常勤というスタッフ構成で運営を行っている。
	UA8-28	博物館資料データベースのクラウドシステム化	4年	50%	R4年度は博物館業界で汎用性の高いデータベースシステムを運用している複数業者との見積合わせを行い、R5年度予算として予算申請を行った。今年度は業者と正式に契約を取り交わして所蔵データの登録を進めており、年度中に当初登録予定分を終える見込みとなっている。
	小計（進捗平均）			36%	
社会貢献・社会	UA9-1	産学官・地域連携活動の実働強化による社会連携・社会貢献の推進	4年	25%	①包括連携協定に基づく産学官・地域連携活動の実働把握と活動評価のため、窓口代表教員へ活動報告書と活動計画書の提出方法を協議し依頼を強化した。その結果、活動報告書提出率が前年度比で61.3%※と2.4%増加した。※2024年1月11日現在 ②研究／産学官・地域連携シーズへの登録は、外部資金を獲得した全ての研究者とした。また、URAと協働して、探索者である企業等の目線を取り入れた専門分野とSDGsとの関係を可視化したシーズマップを作成した。
	UA9-2	キャンパス所在近隣地域との連携	4年	25%	・部・同好会32団体が学外の方々を対象とした活動（収穫祭の活動含む）を合計56回実施。 ・新規に同好会5団体（ｱｲﾄﾞﾙｺﾋﾟｰｻｰｸﾙ、ｱｺｰｽﾃｨｯｸｷﾞﾀｰ同好会、国際関係友好会、書道ｻｰｸﾙ、ｽﾉﾎﾞｰｻｰｸﾙ）を設立。 ・同好会5団体に活動助成金を交付。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
会連携	UA9-3	教職員による社会貢献の推進	4年	25%	大学通信ユニヴプレス大学ランキングにおいて「地域貢献に積極的な大学」で全国24位にランクインしている。また、社会的にニュースとなる事象に対する研究成果等の先取りニュースの配信や、能登地震におけるチャリティ上映会を実施など、社会のニーズに併せた活動を実施している。
	UA9-4	世田谷プラットフォーム中期計画に連動した取り組みの実施による地域連携・社会貢献への寄与	4年	25%	世田谷プラットフォーム中期計画に連動していない計画策定でなっているが、世田谷区及び各地域貢献や社会貢献は随時実施しており、令和5（2023）年度文部科学省改革総合支援事業タイプ3に採択された。
	小計（進捗平均）			25%	
	UA10-1	学生生活・教育内容・研究内容の収集・発信による東京農大ブランド力の強化に資する戦略的展開	4年	25%	本学の研究成果や知見が活用された産品等に対して、広く社会に発信することを目的に、ブランド戦略委員会において、「東京農大ブランドプレミアム認証（仮称）」の構想を提示し、今後、実装に向けた基準等について検討した。 学生活動においては、各種部活動の活躍や学生と教職員が取り組む東京農大ガストロノミーの活動等について、HPやSNSで積極的な情報発信を行った。特に、「箱根駅伝」出場とそれを応援する応援団の大根プロジェクト（応援に使用する大根を自分たちで栽培）は、テレビ、新聞等多くのメディアに注目され、そのストーリーが発信された。また、東京農大ガストロノミー関連では、厚木キャンパスの100円朝食や3キャンパス間の食材交流等が多くメディアに取り上げられている。 教育内容では、産学連携で実施する活動について、オホーツクキャンパスの学生ビール、リップクリーム等の開発、フレッカーの開発、もくずガニの飼育研究と地域特産化に向けた取り組み等がメディアを通じて情報発信された。 さらに、研究内容については、各教員が発表した論文や企業との共同研究による知見を、積極的にプレスリリースを行い、メディア誘致に努めた。 またSNSでの展開として、「総合農学」「箱根駅伝」等を中心に、フォロワーの増加【Xでは約1,500件（4,700→6,300件）、Instagramでは約1,700件（4,900→6,600件）が確認できた。
	UA10-2	適切な大学運営の実施　学内意思決定プロセスの検証と改善によるガバナンスコードとの連動	4年	25%	N2022アクションの後継として、適切な学内意思決定のもと継続的に運営実施されている。

様式A

事業項目	No.	アクションプラン	実施計画の年数	達成度（進捗）%	2023年度進捗報告
大学運営	UA10-3	適切な大学運営の実施　危機管理対策のPDCAサイクルによる不測の事態への対処・危機管理の徹底	4年	25%	新型コロナウイルス感染症については、感染症法上の位置付けが5類に移行されたことを受け、コロナ禍以前の活動ができるように、行動指針や各活動の制限を見直し対策を講じた。また、学生の禁止薬物に掛かる不祥事について、対応方針を検討し再発防止策を実施すると共に、今後同様の案件が発生した際のガイドラインを策定した。
	UA10-4	総合農学系大学として特色ある教育研究の展開による私立大学等経常費補助金等の獲得と、獲得資金の新規事業への活用による教育研究の新展開を起こす好循環の実現	4年	25%	「私立大学等改革総合支援事業」及び「教育の質に係る客観的指標」に対応した年次計画について、文科省等から示される新規取組項目追加等対象条件の変更、本学における計画の進捗状況を加味し、毎年調整しながら、補助金の獲得に努めている。 令和5年度「私立大学等改革総合支援事業」については、タイプ4の継続採用と、タイプ2及びタイプ3の新規採択を目指して改革を行い、目標を達成した。令和5年度「教育の質に係る客観的指標」については、獲得点数2ポイントアップ（一般補助増減率△1%）を目指して改革を行ったが、一部、計画未達成となり、ポイントアップは叶わなかった。 また、令和4年度「私立大学等改革総合支援事業タイプ4」の採択によって獲得した補助金を新規事業等の原資として令和6年度予算計上を行った。
	小計（進捗平均）			25%	